

第6次 茅野市総合計画

CHINO CITY MASTER PLAN

【 概要版 】



茅 野 市

この計画について

1 位置付け・策定の趣旨

- 総合計画は、市民と行政が一緒に考え、策定し、実行する、市政経営に係る最上位の計画です。
- 目まぐるしい変化が予想される社会経済情勢への確に対応し、茅野市の強みをいかしながら、新たな手段や価値観を取り入れ、持続可能なまちの実現を目指すまちづくりの指針として策定したのが、第6次茅野市総合計画です。

2 構成

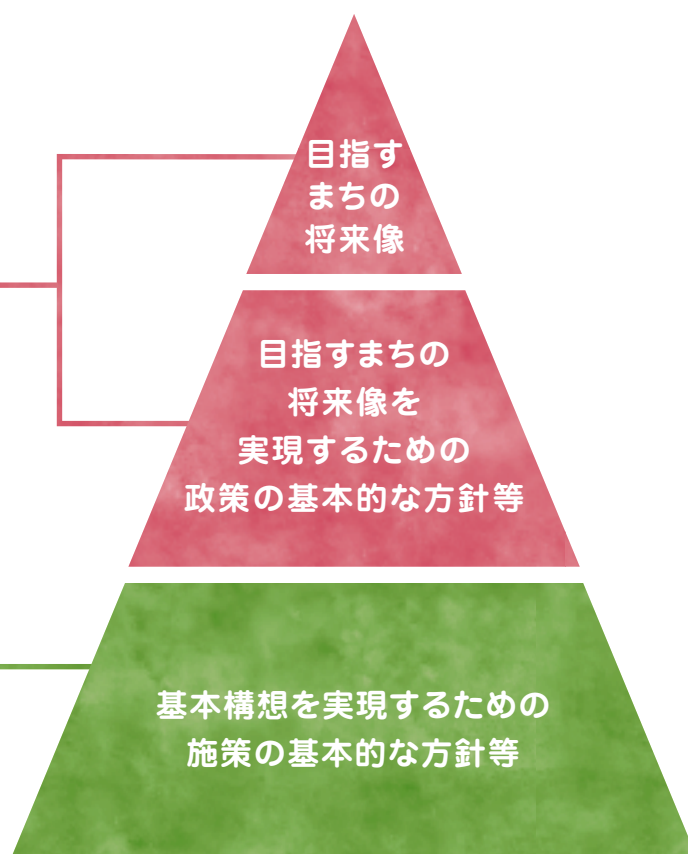
次の2つの層で構成されます。

基本構想

市の長期的な市政経営に係る目指すまちの将来像と、その将来像を実現するための政策の基本的な方針等を定めています。

基本計画

基本構想を実現するための施策の基本的な方針等を定めています。



3 計画期間

令和6年度(2024年度)から
10年度(2028年度)までの5年間です。



これからのまちづくりに必要なこと

茅野市の現状を、「強み」、「弱み」（問題点）、「機会」（チャンス）、「脅威」の4つの要素で整理し、これからの茅野市のまちづくりに必要なこと（課題）を明らかにします。

まず、縄文文化以来、この地で育まれた学びを基本に、茅野市がこれまでのまちづくりにおいて、守り、育んできた大切なもの、そして、これからも、茅野市の「強み」としてまちづくりにいかしていきたいと考えているものを3つ挙げます。

● 3つの強み

八ヶ岳の豊かな自然環境と人々の交流

公民協働※の「パートナーシップのまちづくり」

「若者に選ばれるまち」実現を目指す人口減少対策

一方、茅野市を取り巻く環境の変化は、茅野市に様々な影響を及ぼしています。

● 脅威

世界規模で大きく変化する社会経済情勢／世界規模の異常気象
人口減少・超高齢化の確実な進展

● 弱み

（問題点） 地域の人と人とのつながりの希薄化／地域経済の縮小／地域や産業を支える人材の不足
自然災害の多発化・激甚化／市財政の硬直化

● 機会

（チャンス） 「地方回帰」の新たな人の流れ／地方のDX（デジタルトランスフォーメーション）※の取組に対する国の支援／GX（グリーントランスフォーメーション）※への社会的気運の高まりと、取組に対する国の支援

こうした現状を踏まえて、茅野市の強みをいかし、「機会」（チャンス）を捉えながら、茅野市の「弱み」（問題点）を克服し、脅威に立ち向かうといった考え方にに基づき、これからの茅野市のまちづくりに必要なこと（課題）を、次のとおり整理します。

● 課題

人口減少下における持続可能な地域経営 公民協働のまちづくりの転換

多発化・激甚化する自然災害への対応

課題解決の手段としてのDXの推進 地域循環共生圏※の形成に向けたGXの推進

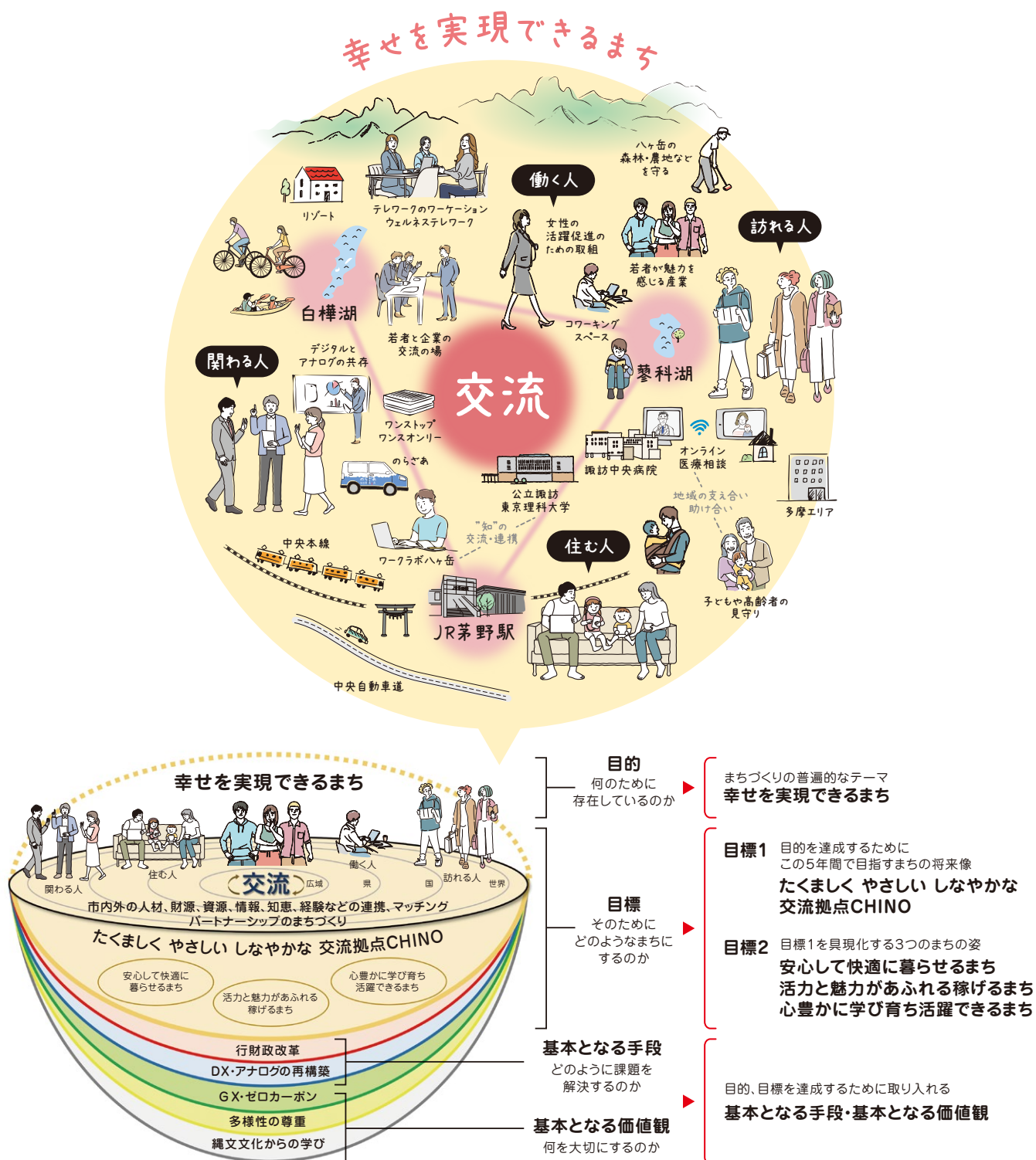
行財政改革※の推進

公民協働：市民、民間団体、事業者などと行政が同じ目的のために、連携・協力して取り組むこと。 **DX**：デジタル技術に社会に浸透させて、人々の生活をより良いものへと変革すること。 **GX**：民間事業者などとの連携により、脱炭素社会の実現と経済成長を同時に目指し、取組を推進すること。 **地域循環共生圏**：それぞれの地域が主体的に、自ら課題を解決し続け、得意な分野で互いに支え合うネットワークを形成していくことで、地域も国全体も持続可能にしていく「自立・分散型社会」のこと。 **行財政改革**：時代に沿った行政需要に的確に対応し、市民サービスのより一層の向上を図るために、組織、制度や行政運営のあり方を見直し、行財政運営の適正化・効率化を図っていくこと。

これからのまちづくりの考え方とイメージ

課題の解決に向けて、これからのまちづくりの普遍的なテーマ【目的】や、目指すまちの将来像【目標1】、3つのまちの姿【目標2】といった具体的なまちの姿と、こうした目的・目標の達成に向けて取り入れる手段・価値観、成果指標・目標などを基本構想としてまとめます。

これからのまちづくりのイメージは、次のとおりです。



目的、目標、基本となる手段・価値観については、次ページから定めます。

まちづくりの普遍的なテーマ 【目的】

茅野市を「幸せを実現できるまち」にすること。

なぜ今、幸せの実現がこのまちに必要なのでしょうか。

グローバル化※の進展により、世界規模の様々な変化が市民の生活に直接影響を及ぼす中、今後、ゼロカーボン※やSDGs※などの世界共通の目標達成や、人口減少・超高齢化の進展による地域の人手不足などの課題解決に向けたまちづくりを進める上で、市民一人ひとりの意識と行動が大きな意味を持ててきます。

ここで重要なキーワードになるのが、「幸福感」です。幸福感は、人に前向きさや向上心、人を受け入れよう、人や社会のために何かしようなどの気持ちを生み出してくれます。そして、人の「幸福感」を向上することで得られた心の豊かさは、まちの豊かさにつながり、より大きな幸せの連鎖を生み出します。その連鎖は、地域の課題解決のみならず、世界の目標達成にも大きく貢献するものになります。

こうした考え方から、茅野市に住む人、働く人、関わりのある人、茅野市を訪れる人など、あらゆる人が、自己実現を通じて、その人なりの幸せを実現できるまち、その幸せがまた別の誰かの幸せにつながっていくまち、そして、その幸せの連鎖が未来に向かって続いていくまち、茅野市を、そんな「幸せを実現できるまち」にすることを、まちづくりの目的とします。



グローバル化：資本や労働力の国境を越えた移動が活発化するとともに、貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって、世界における経済的な結びつきが深まること。 **ゼロカーボン**：二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。 **SDGs**：令和12年（2030年）までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標のこと。17のゴールと169のターゲットから構成されている。

目指すまちの将来像 【目標1】

「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」の実現

目的を達成するために、この5年間で目指すまちの将来像を【目標1】とします。

まず、これまで茅野市がまちづくりで育んできたまちの「たくましさ」、「やさしさ」を基本に、これからは、目まぐるしい変化が予想される社会経済情勢へ柔軟かつ的確に対応するための「しなやかさ」を、これまで以上に意識していく必要があります。

「たくましさ」

- ・地域において稼げる仕事・誇れる産業があること
- ・元気にいきいきと人らしく生活できること
- ・まちに活気と魅力があふれ、賑わいを感じられること
- ・災害に立ち向かう気概と、命を守るための備えがあること
- ・新しいことに挑戦し続ける前向きさがあること

「やさしさ」

- ・人の命や自然を大切に、自分以外を思いやる心を持つこと
- ・安心して子どもを産み、育てることができる環境があること
- ・支え合いの精神と新たな手法による共助の仕組みが整っていること
- ・使う人にとって最適な都市基盤が整備されていること
- ・お互いを尊重して認め合い、受け入れ、共生できること

「しなやかさ」

- ・予期せぬ変化や困難を乗り越える柔軟性に富んでいること
- ・持続可能な社会の実現のため、社会の仕組みを変えていけること
- ・生涯に渡って活躍するために向上心を持って学び、実践できること
- ・地域の担い手や求められる人材を育み、呼び込み、未来へとつなぐこと
- ・大切な価値を守るため、自ら変わり続けること

そして、私たちが幸せを実現するための原動力は、多様な交流です。

茅野市が考える 3つの交流

1 交流 ～「若者に選ばれるまち」の実現～

市外からの人や企業の呼び込み、市内外での交流

2 交流 ～地域における支え合い、助け合い～

市内（地域）における支え合い、助け合いなどの交流

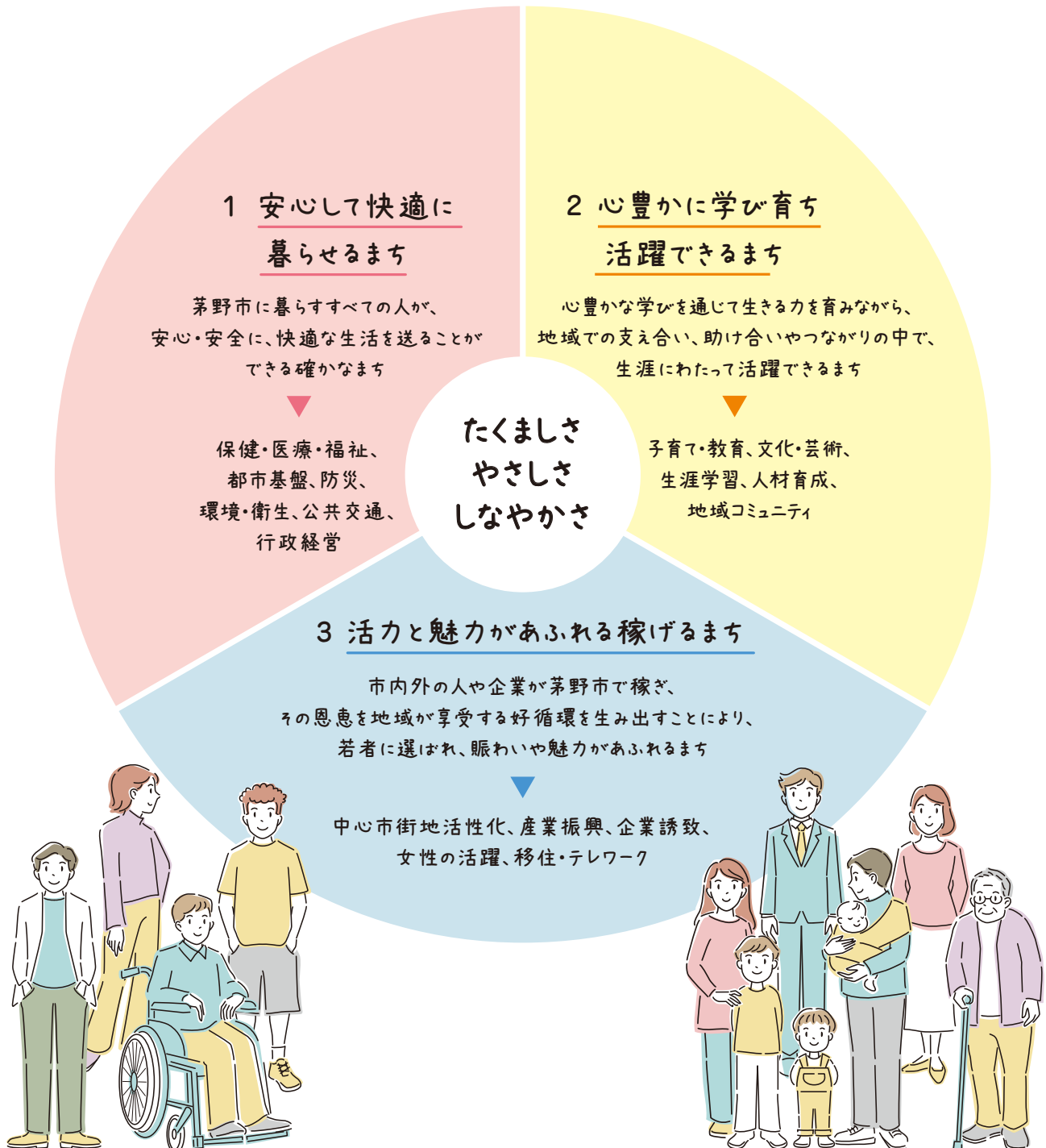
3 交流 ～“知”の(CHINO)交流拠点の創出～

知識や知恵など目に見えない価値や資産の交流

人口減少・超高齢化が進む今だからこそ、交流を拡大し、これまで茅野市が培ってきた「たくましさ」、「やさしさ」、「しなやかさ」に、さらに磨きをかけ、新しい時代に対応した「幸せを実現できるまち」の創造を図ります。

3つのまちの姿 【目標2】

様々な交流の力を発揮し、まちの「たくましさ」、「やさしさ」、「しなやかさ」に磨きをかけるため、次の3つのまちの姿を【目標2】とし、「幸せを実現できるまち」の具現化を目指します。



「3つのまちの姿」のそれぞれに関係する分野を基本計画としてまとめ、「幸せを実現できるまち」のさらなる具現化を目指します（基本計画の全体イメージは、10p、11p）。

基本計画には、目指すまちの姿や成果指標・目標などを【目標3】として掲げ、その実現に向け、この5年間で重点的に取り組む具体的な施策や、その方針などを定めます。

基本となる手段・基本となる価値観

ここまでに掲げたまちづくりの普遍的なテーマ【目的】、目指すまちの将来像【目標1】、3つのまちの姿【目標2】の達成に向けた取組は、すべて次の「基本となる手段」と、「基本となる価値観」を取り入れながら進めます。

1 基本となる手段

(1) 行財政改革

デジタル技術などを取り入れながら、公民協働のまちづくりの仕組みや、行政内部の仕事のやり方、公共施設、行政サービスのあり方などを再構築します。

(2) DX・アナログの再構築

人の手が必要な部分をしっかり守りながら、置き換え可能な部分にデジタル技術を取り入れ、様々な仕組みや手順などを再構築します。

2 基本となる価値観

(1) GX・ゼロカーボン

2050年のゼロカーボン達成を見据え、自然災害の発生抑制、自然環境の保全などを通じて、安心、安全な暮らしと地域経済の活性化を同時に実現します。

(2) 多様性の尊重

あらゆる人が、お互いの考え方や生き方などを尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できる環境を整え、さらなる交流の促進を図ります。

(3) 縄文文化からの学び

市内に多数存在する縄文時代の文化遺産を通じた多くの学びにより、現代社会が抱える様々な課題を解決に導く「価値」を見出します。

まちづくりの3つのポイント

時代の変化に対応して、市民と行政が一緒にまちづくりを進めるための3つのポイントを、以下のとおり定めます。

1 目的志向

～ゴールから考える～

目的、目標の達成のために、必要なこと、不要なこと、変えること、変えないことなどを考えます。

2 未来志向

～未来への種まき～

10年後、20年後の茅野市の未来のために、今できること、これから5年間でできることなどを考えます。

3 自分ごと化

～自分がつくる みんなの茅野市～

目的、目標の達成のために、未来の茅野市のために、それぞれの立場でできることを考え、行動します。

まちづくりの3つの成果指標と目標

まちづくりにおける最上位の成果指標（KGI:重要目標達成指標）を次の3つとし、それぞれ目標を定めます。

1 将来展望人口

総合計画に位置付けた人口減少対策の効果を見込んで
茅野市が独自に推計した将来展望人口に基づく指標

目標

5年後（令和10年度（2028年度））55,000人以上
10年後（令和15年度（2033年度））55,000人維持

2 生産年齢人口の割合

年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）、老年人口（65歳以上）の
年齢3区分のうち、主にまちづくりの中核を担う生産年齢人口の割合の指標

目標

5年後（令和10年度（2028年度））55%以上
10年後（令和15年度（2033年度））55%維持

3 市民意識調査における

「幸せ」と感じる人の割合

国が示す「well-Being」（地域幸福度）の考え方にに基づき毎年市が実施する市民
意識調査の「あなた自身の幸福度」の設問において、0（とても不幸）から10（とても幸せ）までの
11段階の数字のうち、5を選んだ人を、幸せ又は不幸のどちらでもない状態とし、6から10までの
数字を選んだ人の割合の指標

目標

57.2%（令和4年度（2022年度））を基準に、
5年後（令和10年度（2028年度））にこの割合を上回ること

基本計画の全体イメージ

すべての取組のテーマ 交流



手段

行財政改革

住民自治、政策運営、財政運営、
公共施設の再構築

DX・アナログの再構築

あり方、やり方の見直し、再構築、
デジタル技術の導入

GX・ゼロカーボン

省エネ・再エネの推進、生活様式、働き方、マインドの変革

多様性の尊重

男女共同参画、
多文化共生・国際交流などの推進

縄文文化からの学び

縄文文化からの学びを活かした
取組の展開

地域創生総合戦略

人口減少対策に特化した
政策横断プロジェクト

価値観

「幸せを」

次の3つの視点による取組を

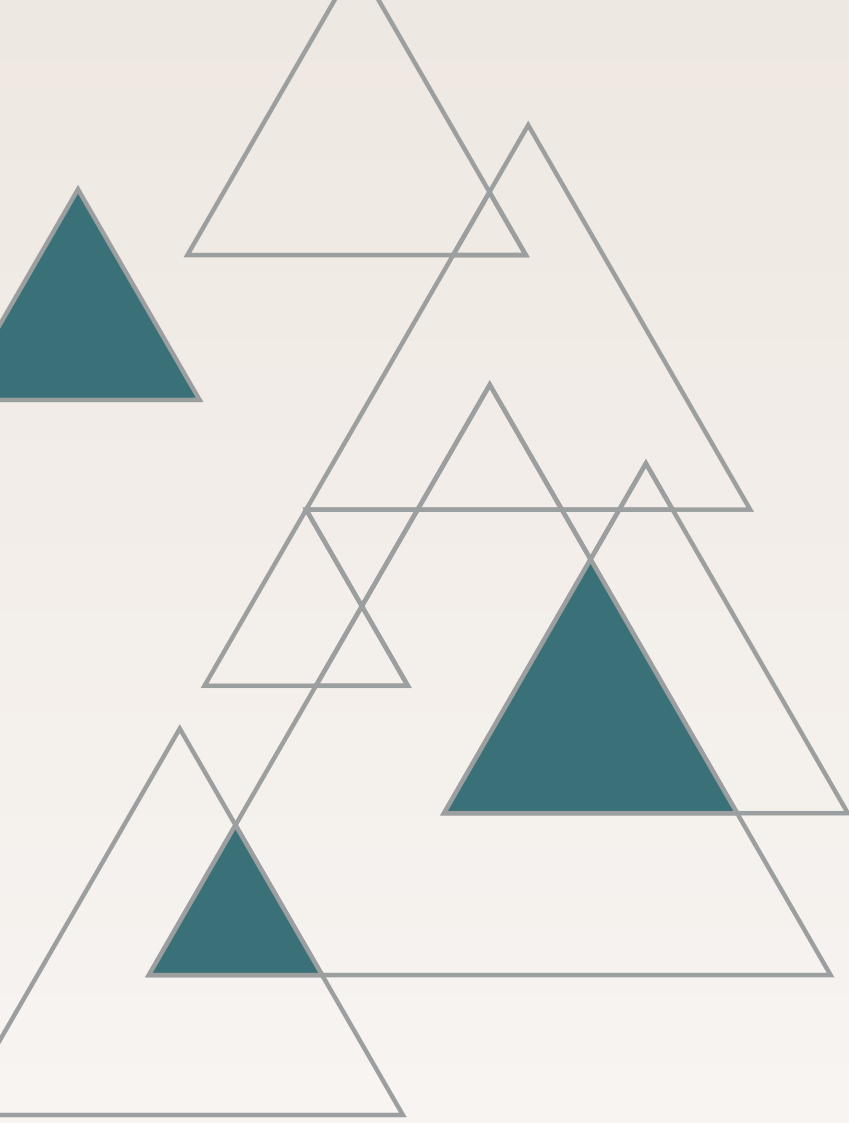
市外の人や企業が行き交う 目的

市内を人や企業が行き交う仕組み

新しい時代に対応した**自治・協働**

1 安心して快適に暮らせるまち

1	2	3	4	5	6	7	8	9
社会福祉	地域福祉	健康・食育	地域医療	環境・衛生	道路・河川	上下水道	住環境	公共交通



第6次 茅野市総合計画【概要版】

●発行／令和6年11月 長野県茅野市

●企画・編集／茅野市役所 企画部企画課

〒391-8501 茅野市塚原二丁目6番1号

TEL.0266-72-2101

<https://www.city.chino.lg.jp/>

